



2025年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月14日

上場会社名 株式会社 A V I L E N 上場取引所 東
コード番号 5591 URL <https://avilen.jp/ir/>
代表者 （役職名）代表取締役 （氏名）高橋 光太郎
問合せ先責任者 （役職名）執行役員 C F O （氏名）高田 拓明 T E L 03 (5823) 4694
半期報告書提出予定日 2025年8月14日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有

（百万円未満切捨て）

1. 2025年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年1月1日～2025年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年12月期中間期	788	—	166	—	156	—	102	—
2024年12月期中間期	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）包括利益 2025年12月期中間期 102百万円（－％） 2024年12月期中間期 ー百万円（－％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期中間期	16.85	16.33
2024年12月期中間期	—	—

（注）2024年12月期第4四半期より連結財務諸表を作成しているため、2024年12月期中間期の数値、対前年中間期増減率及び2025年12月期中間期の対前年中間期増減率については記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2025年12月期中間期	1,272	655	51.5
2024年12月期	1,233	552	44.8

（参考）自己資本 2025年12月期中間期 654百万円 2024年12月期 552百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年12月期	—	0.00			
2025年12月期（予想）			—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	1,614	30.0	250	32.0	234	24.2	152	31.4	24.97

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記 (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 (中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年12月期中間期	6,107,493株	2024年12月期	6,107,493株
② 期末自己株式数	2025年12月期中間期	一株	2024年12月期	一株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年12月期中間期	6,107,493株	2024年12月期中間期	6,050,811株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

当社グループは、当中間連結会計期間より中間連結財務諸表を作成しているため、前年同期との比較分析は行っておりません。

（1）当中間期の経営成績の概況

当社グループは「データとアルゴリズムで、人類を豊かにする」をパーパスに掲げ、「企業と人がAIを自在に使いこなし、発展し続ける豊かな未来」の実現に向けて、「AIを搭載したソフトウェアの開発」と「デジタル組織の構築を支援するプログラムの提供」を主軸に、企業のAI活用/DX推進による成長を支援してきました。その中で、特に既存取引先のLTV最大化、AIソリューションの新パッケージ開発及びM&Aやアライアンスに向けた取り組みにより一層注力し、非連続成長の実現のための施策を進めております。

AIソフトウェアユニットでは、AI・データサイエンスの観点でデータの利活用により、顧客企業の業務効率化等の新たな価値を創造するソリューションを提供しています。高速かつ高精度なボイスボットの展開や業務プロセスの完全自動化を目指す帳票処理AIエージェント「帳ラク」等の最先端の生成AIソリューションの開発をはじめ、生成AI関連の開発プロジェクトやChatGPTを組み合わせた自社SaaSプロダクトである「ChatMee」等、生成AIビジネスへの展開に注力しております。

ビルドアップユニットでは、AI/DXに関わる組織及び人材の現状評価から必要人材（ビジネス領域及びエンジニア領域）の育成まで、AIの実装を実現するための組織開発に必要なパッケージ化されたサービスを一貫通貫で提供しております。また、新たに生成AI関連コンテンツをリリースするなどサービス範囲の拡充を進めております。

AI業界を取り巻く事業環境については、生成AIの登場でAIの利活用が急速に実用化へ近づいている状況であり、日本における生成AI需要は2024－2028年の間に1,016億円から8,028億円まで拡大する予測（出典：IDC Japan株式会社「IDC Worldwide AI and Generative AI Spending Guide」（2024年8月発行）」）がされております。この環境下において、AIソフトウェアの需要拡大に伴い、特にAI人材の需給ギャップが広がり、真に価値のある生成AI活用のニーズが顕在化する見通しとなっております。

良好な事業環境のもと、組織開発からAIアルゴリズム開発まで完結したソリューションを提供できる当社独自の一貫通貫モデルに加え、株式会社大塚商会等の資本業務提携先との連携を深化させながら、AIソフトウェア及びビルドアップ共に顧客基盤の拡充、継続性の高いプロジェクトを着実に積み上げております。また、DS-Hubの活用等により今後の成長に向けて優秀な人材の採用も順調に進んでおります。加えて、生成AI領域に特化したエンジニア集団である株式会社LangCoreの連結子会社化により、当連結会計年度において通期業績の連結取り込みとなります。また、同社の強みである生成AIプロダクトを活かし、大型プロジェクトの受注につながる等、シナジーが早期に創出されており、両社の短期的な収益向上のみならず、中長期的な事業拡大が見込まれる状況にあります。さらに、生成AI関連の開発実績を有し、AIトランスフォーメーションのコンサルティングに強みをもつ株式会社Kieiと業務提携契約を締結し、AIエージェントサービス領域の更なる強化と拡大を見込んでおります。

当中間連結会計期間においては、AIソフトウェアユニット及びビルドアップユニットにおける顧客数・プロジェクト数は堅調に推移し、売上高788,325千円、営業利益166,674千円、経常利益156,033千円、親会社株主に帰属する中間純利益102,912千円となりました。なお、当社グループはAIソリューション事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しておりますが、販売実績を主な内訳に区分した売上高は、AIソフトウェアユニットは539,326千円、ビルドアップユニットは248,999千円となっております。

（2）当中間期の財政状態の概況

① 財政状態の状況

（資産）

流動資産は869,790千円となり、前連結会計年度末に比べ65,075千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が31,014千円増加、売掛金及び契約資産が15,361千円増加したことによるものであります。

固定資産は402,997千円となり、前連結会計年度末に比べ25,785千円減少いたしました。これは主に、株式会社LangCoreの株式取得により発生したのれんが償却により25,384千円減少したことによるものであります。

この結果、当中間連結会計期間末における資産合計は1,272,788千円となり、前連結会計年度末に比べ39,290千円増加いたしました。

（負債）

流動負債は322,780千円となり、前連結会計年度末に比べ350,872千円減少いたしました。これは主に、金融機関からの借入金の借換による短期借入金が400,000千円減少したことと当該借換による1年内返済予定の長期借入金84,000千円増加したことによるものであります。

固定負債は294,500千円となり、前連結会計年度末に比べ287,250千円増加いたしました。これは、金融機関からの借入金の借換による長期借入金の増加によるものであります。

この結果、当中間連結会計期間末における負債合計は617,280千円となり、前連結会計年度末に比べ63,622千円

減少いたしました。

（純資産）

純資産は655,507千円となり、前連結会計年度末に比べ102,912千円増加いたしました。これは、親会社株主に帰属する中間純利益の計上によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、597,426千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において営業活動により獲得した資金は、74,261千円となりました。主に、売上規模の拡大による税金等調整前中間純利益156,033千円、売上債権及び契約資産の増加額15,361千円、契約負債の減少額28,446千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において投資活動により支出した資金は、5,342千円となりました。これは、本社オフィスの増床に伴う有形固定資産の取得による支出1,990千円、敷金及び保証金の差入による支出3,352千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において財務活動により支出した資金は、39,000千円となりました。主に、長期借入金の返済による支出28,750千円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想について変更はありませんが、今後の事業環境の動向や業績の進捗を注視し、業績予想の見直しが必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	566,333	597,348
売掛金及び契約資産	207,170	222,531
その他	31,211	49,910
流動資産合計	804,714	869,790
固定資産		
有形固定資産	5,467	6,774
無形固定資産		
のれん	342,691	317,306
著作権	4,535	4,535
ソフトウェア	43,255	38,195
無形固定資産合計	390,482	360,037
投資その他の資産	32,833	36,186
固定資産合計	428,783	402,997
資産合計	1,233,498	1,272,788
負債の部		
流動負債		
買掛金	13,403	16,541
未払金	13,675	15,265
未払費用	45,171	45,062
契約負債	77,122	48,676
短期借入金	400,000	—
1年内返済予定の長期借入金	1,500	85,500
未払法人税等	58,804	53,082
賞与引当金	4,347	16,878
その他	59,629	41,773
流動負債合計	673,653	322,780
固定負債		
長期借入金	7,250	294,500
固定負債合計	7,250	294,500
負債合計	680,903	617,280
純資産の部		
株主資本		
資本金	62,609	62,609
資本剰余金	59,609	59,609
利益剰余金	429,802	532,714
株主資本合計	552,022	654,934
新株予約権	573	573
純資産合計	552,595	655,507
負債純資産合計	1,233,498	1,272,788

（2）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	当中間連結会計期間 （自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）
売上高	788,325
売上原価	226,541
売上総利益	561,783
販売費及び一般管理費	395,109
営業利益	166,674
営業外収益	
受取利息	270
助成金収入	3,300
その他	112
営業外収益合計	3,682
営業外費用	
支払利息	3,744
支払手数料	10,250
為替差損	328
営業外費用合計	14,322
経常利益	156,033
税金等調整前中間純利益	156,033
法人税等	53,121
中間純利益	102,912
親会社株主に帰属する中間純利益	102,912

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	当中間連結会計期間 （自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）
中間純利益	102,912
中間包括利益	102,912
（内訳）	
親会社株主に係る中間包括利益	102,912

（3）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	当中間連結会計期間 （自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純利益	156,033
減価償却費	5,743
のれん償却額	25,384
賞与引当金の増減額（△は減少）	12,530
受取利息	△270
助成金収入	△3,300
支払利息	3,744
支払手数料	10,250
為替差損益（△は益）	328
売上債権及び契約資産の増減額（△は増加）	△15,361
仕入債務の増減額（△は減少）	3,138
契約負債の増減額（△は減少）	△28,446
未払金及び未払費用の増減額（△は減少）	1,480
その他	△37,978
小計	133,278
利息の受取額	270
助成金の受取額	3,300
利息の支払額	△3,744
法人税等の支払額	△58,842
営業活動によるキャッシュ・フロー	74,261
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△1,990
敷金及び保証金の差入による支出	△3,352
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,342
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の返済による支出	△400,000
長期借入れによる収入	400,000
長期借入金の返済による支出	△28,750
その他の支出	△10,250
財務活動によるキャッシュ・フロー	△39,000
現金及び現金同等物に係る換算差額	△328
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	29,590
現金及び現金同等物の期首残高	567,835
現金及び現金同等物の中間期末残高	597,426

（4）中間連結財務諸表に関する注記事項

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

当中間連結会計期間（自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）

AIソリューション事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。